

今後のサイバー社会 設計の課題

画像電子学会企画セッション

2014.6.30

サイバーリテラシー研究所・矢野直明

yano@cyber-literacy.com



私の略歴

1966 朝日新聞入社、西部本社社会部、整理部を経て、
出版局アサヒグラフ編集部

1988 『ASAHIパソコン』を創刊して編集長

1991 『月刊Asahi』編集長

1995 『DOORS』を創刊して編集長

2002 サイバーリテラシー研究所開設

慶応大学メディア・コミュニケーション研究所、明治大
学法学部、情報セキュリティ大学院大学、サイバー大
学IT総合学部などで教職につく



『IT社会事件簿』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

サイバーリテラシー研究所

サイバーリテラシー研究所 [CyberLiteracyLab] サイバーリテラシーは「IT社会を生きる杖」

HOME

- サイバーリテラシーの歴史
- サイバーリテラシーとは
- サイバーリテラシーの原則
- サイバーリテラシー関連書籍
- 基本文献
- 研究所について
- アーカイブ

関連リンク
[Japanese] [English]

IT社会事件簿

『IT社会事件簿』(ディスカヴァー21)好評発売中

サイバーリテラシー三部作

- 『サイバーリテラシー概論』
- 『総メディア社会とジャーナリズム』
- 『情報文化論ノート』

ブログ「サイバー閑話」

雑誌『広報』連載「現実社会に潜むデジタルの『影』を追う」バックナンバー。その他、連載記事などの「スクラップ」や、最新の出来事に関するコメント、興味深い新著の紹介や日常雑感の「新々の記」など。

<http://www.cyber-literacy.com/>

ベビーシッター事件・考え方①

子どもをインターネットのベビーシッターサイトで見つけた男性に、相手の住所や電話番号も聞かずに、簡単に預ける母親には、母親としての心構えが欠けている。何度も会って、信頼できる人間であることを確認してから預けるべきだった。

ベビーシッター事件・考え方②

シングルマザーに対する社会の支援態勢が立ち遅れている。身近に預かってくれる親族や友人がいない場合や緊急の際には、ベビーシッターサイトはありがたい。問題は、引き受け手の男性が無責任な人間だったことにあるので、行政はこの種のシステムを安全なものに整備すべきである。

ベビーシッター事件・考え方③

ネットサイトが便利なのは確かだが、災害の時に典型的なように、ネットで一時的につながった関係からは、顔見知り、気心も知れ、無理を聞いてもらえると生身の人間関係が持つ信頼は生じにくい。

ここはやはり、何もかもをネットで調達する生き方そのものを考え直すべき時である。

社会全体の あり方を 考え直す時

真正デジタル・キッズの登場

ベネッセ総合教育研究所が昨年3月、東京・神奈川・千葉・埼玉在住の6歳までの乳幼児をもつ母親3000余名を対象に調査したところ、母親の6割がスマートフォンを使用しており、その中で、2歳児の2割強がほとんど毎日スマートフォンに接していると答えた。

<http://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=3197>

アメリカの非営利団体「コモンセンス・メディア」は11年と13年の2度、子どもとメディア利用の実態を全国的に調査、公表しているが、それによると、モバイル端末を利用したことのある8歳以下の子どもは38%から72%に増えた。また2歳以下の幼児の場合も、10%から38%増えている。

<http://www.commonsensemedia.org/research>



現実世界とサイバー空間の合体

CNNニュースによると、フェイスブックは、オンラインの情報だけでなく、そこに現実世界の書店やスーパー、コンビニなどで購入した商品の情報もミックスさせて、よりターゲットを絞った広告を提供するシステムを開発している。

フェイスブック担当者は、これらの情報は暗号化されているので、プライバシー上の問題は生じないと言っていたが、現実世界の買い物も、現金なら別だが、カードを使えばすべて把握され、それが集約されて転売され、オンラインに結ばれる時代がきた。(2013/11)

従業員の行動を逐一把握

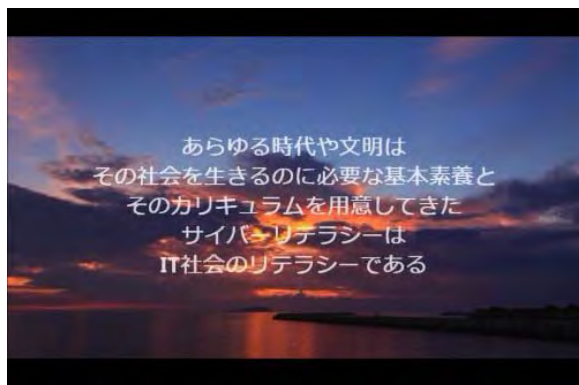
「仕事の見える化」を促進できると宣伝されているアプリケーションは、それをインストールしたスマホを従業員に持たせれば、彼らがいまどこにいるかの位置情報、どのようなメールをだれと受発信したかの履歴とその内容、添付ファイルの中身、電話の送受信と音声内容、途中で利用したウェブアクセス履歴、サイトのURLとキーワード、使用したアプリケーション履歴などが完全にログとして管理できるという。これらのツールを動員するときの手続きは、どうすればいいのか。

<https://www.motex.co.jp/An/index.html>

サイバーリテラシーの必要性

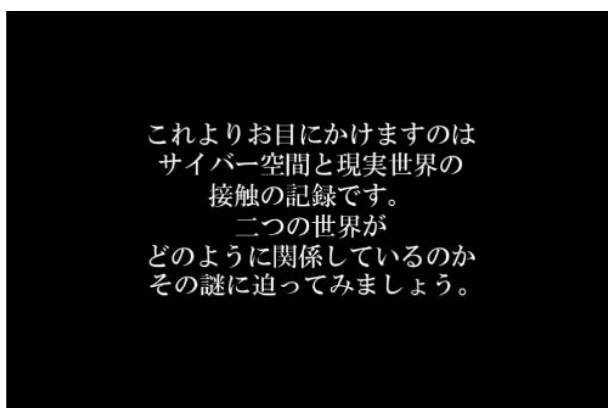
技術は進展するが、社会の対応は後手である。全体像を把握できないままに事態はどんどん進んでしまう。社会科学的な観点からの技術評価が大切。

5分間のサイバーリテラシー公開授業 社会編<IT社会を豊かに生きるために>



GKBコモンズ(<http://gkb48.commonswith.com/>)で閲覧可能
(サイバーリテラシー研究所のブログでURL紹介)

5分間のサイバーリテラシー公開授業 事件編<『IT社会事件簿』を読む>

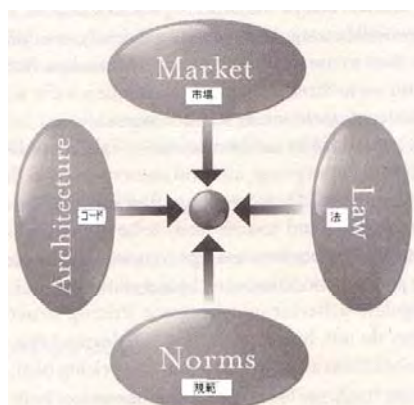




『IT社会事件簿』を読む④
グーグルサジェストの悲劇

サイバーリテラシー研究所・矢野直明
www.yber-literacy.com
2014.2.22

私たちの行動を規制する要因



ローレンス・レッシング『CODE』(翔泳社、原著1999年)

アーキテクチャー

＜法や規範、市場は、人間の判断によってチェックされる制約である。だれか人間やグループがそうしようと決めたときにだけ効力を持つ。でもアーキテクチャーの制約は、いったん動き出したら、だれかがそれを止めるまで効力を持ち続ける＞

＜法や規範は、その対象者がその存在についてある程度知っていないと機能しないが、アーキテクチャーの制約は、その対象者がその存在を知ろうと知るまいと機能する＞

リテラシー (literacy) とは

①識字能力、言語運用能力

②教養があること

③(特殊な分野・問題に関する)知識・能力」

(『ランダムハウス英和大辞典第2版』)

読み書きそろばん(寺子屋)、漢籍(塾)

四書五経 儒教における主要な経典。大学、中庸、論語、孟子、易経、書経、詩経、礼記、春秋

リベラルアーツ(the liberal arts)①大学の教養課程、②(seven liberal arts)西欧中世の自由7科。文法、論理学、修辞学、算数、幾何、天文、音楽。

サイバーリテラシーとは①

IT社会を生きるための基本素養

電子の文化のリテラシー

万人が情報発信できる時代のリテラシー

現代社会を、私たちが現に生活している「現実世界（リアルワールド）」と、インターネット上に成立した「サイバー空間（サイバーワールド、サイバースペース）」の相互交流する姿と捉えることで、これからの社会を快適で豊かなものにするための実践的知恵を導き出すことをめざしている。

サイバーリテラシー3原則

- ①サイバー空間には制約がない
- ②サイバー空間は忘れない
- ③サイバー空間は「個」をあぶり出す



井上ひさし『一週間』

われわれ人間が生きて行くためには、世界がどんなふうできているかという世界観と、世界がそんなふうできているならこう生きようという処世訓が必要である。

みんなで小さな
社会的合意を
作り上げる

ソーシャルキャピタルの生産